

淀川水系流域委員会

委員長 芦田 和男様

3月上旬には、京都で世界水フォーラムが開催されます。私は平成3年から日吉の自然環境を守る会を約65名で組織して、京北の「赤石の産廃処理場設置反対」日吉ダム建設反対、にのうみゴルフ場の除草剤散布による水質汚染反対、赤はげの産廃不法投棄反対、上田養豚場の糞尿たれ流し反対、日吉ダム建設に伴う大堰川漁業補償闘争、等巾広い長期にわたる闘争を経験して参りました。又、大堰川の河川環境の調査を通じて生態系の変化を確認することができました。

さらに京都の桂川水フォーラムにも参加し、日吉ダム建設にかかわる問題点について報告してきました。これらの諸闘争のなかで、国土問題研究所の木村先生や川那部先生にもお世話になりました。

私の自宅は日吉ダムの直下流の殿田と云う所に住んでいます。今日までに床上浸水6回、床下浸水10回以上の洪水害をこうもりました。その中でも床上120cmの浸水では大被害を受けました。洪水害の経験で水のおそろしさや、ダムの安全性と下流に及ぼす影響について深い感心を持つようになりました。

水の効用については、飲料水をはじめ家庭用水、農業用水、工業用水、に区分できますが、いづれにしても水は人類と生物にとって絶対的に大切なものです。

即ち水には功罪があると思います。

この自然の水を利用して、大企業や国がお金儲けをしていることは、おかしいと思います。この水の所有権は、その地域を流れる地域住民にあると思います。日本国憲法や地方財政法上でも問題だと思っています。

私は今回の世界水フォーラムに参加し発言したいと思っていますが、参加できそうにありません。

私はこの水フォーラムがお祭りさわぎに終わるような事があってはいけないと考えています。

どんな課題について討議するのか、どこまで掘り下げていくのかによって評価は違ってくると思いますが、徹底した討論とその適正な集約が大切だと思っています。

ダムの寿命は100年だと専門家が云っています。

大堰川の上流に関西電力天若ダムが昭和28年に完成しました。その後50年を経過した時点でヘドロがダムの容積の50~60%堆積しています。

このヘドロをまぜくって下流に流しているのが現状です。

そのことだけでも改善するため、1年に1回は水をぬいて乾かして、ヘドロを中心に外に搬出して下流に流さないようにすることが実行に移せるかと云うことです。

即ち、1.現状 2.問題点 3.問題点の背景とその本質 4.住民の要求 5.改善対策、以上5点についてを討議し集約して意思統一ができたとしても、改善対策が実行できなくては、先般京都で行われた世界の地球温暖化防止京都会議のように形骸化されてしまつては、会

議の意義もうすれると思います。

長野県の田中知事は脱ダム宣言で有名ですが、その影響が全国の都道府県に及び、さらに淀川水系流域委員会のダムに関する基本方針等が国のダム建設方針を動かす、即ちダム建設抑制は私達市民にとっては喜ばしいことです。

したがって、これらの活動の成果が私達地方の南丹ダム建設中止になって、地域住民は喜んでいきます。

以上、日吉の自然環境を守る会の組織的活動を実践している立場から会を代表し、考えの一端を、今回の世界水フォーラムに反映していただきたくよろしくお願い申し上げます。